

第10回日本総合歯科学会総会・学術大会の報告

藤 井 規 孝（大会長）

奥 村 暢 旦（準備委員長）

第10回日本総合歯科学会総会・学術大会は、平成29年11月4日（土）、5日（日）の両日、アートホテル新潟駅前と新潟大学駅南キャンパスときめいと（新潟市）において、「専門歯科医と総合歯科医」のテーマのもとに開催されました。本学術大会においては、学会テーマに基づいたシンポジウム4題、理事長就任講演として特別講演1題を企画しました。10回の節目となる本学術大会には253名が参加し、口演発表11題、ポスター発表40題の発表を中心に2日間活発な議論、意見交換が行われました。



開会の挨拶をする藤井規孝大会長



口演発表の様子

4日（土）に特別講演として開催された伊藤孝訓理事長（日本大学松戸歯学部）による理事長就任講演「総合歯科学の本質」においては、総合歯科学における学問的オリジナリティについての理事長の考えが示され、座長の樋口勝規前理事長（福岡歯科大学）を中心に講演後本学会が進むべき道を考えるべく活発な討議が行われ、今後の方向性が示されました。



特別講演の様子

5日（日）に開催されたシンポジウムでは、座長の田口則宏先生（鹿児島大学）によりシンポジウムの意図が明確に示された後、和田尚久先生（九州大学）による「総合歯科医に求められる役割を考える—口腔総合診療科に所属する一歯科保存専門歯科医の立場から—」、白井肇先生（岡山大学）による「補綴専門医と総合歯科医の症例を診る視点の違いについて」、二宮一智先生（日本歯科大学新潟病院）による「「専門医歯科医」と「総合歯科医」—口腔外科専門医との連携について—」、村



シンポジウムの様子

田雅史先生（新潟市開業）による「「総合歯科医の役割について」—開業医・歯周病専門医の立場から考える—」と4名のシンポジストによる講演が行われました。保存、補綴、口腔外科、歯周それぞれ専門歯科医の立場から総合歯科医に求められる役割について意見が出され、講演後の総合討論では本学術大会のメインテーマについて活発な議論が交わされました。

今回より新設された優秀口演賞に対し5演題の応募があり、学会当日の口演内容を中心に選考委員会による厳正な審査の結果、古市哲也先生（日本大学）による「光学印象機器の3Dデータを活用した窩洞形成評価システムの研究」が選出されました。また、本学会の特色の一つでもある、卒後3年以内の先生による症例発表への若手優秀ポスター賞の選考も同様に行われ、根東愛先生（徳島大学）が最優秀賞に、衛藤希先生（九州大学）と高橋佑和先生（日本大学）が優秀賞にそれぞれ選出され、閉会式にて表彰されました。



優秀口演賞の表彰



若手ポスター発表の様子



若手優秀ポスター賞の表彰

懇親会はアートホテル新潟駅前越後の間にて行われ、180名を超える参加者が集まり、盛況かつ活発な交流がなされました。懇親会では、日本総合歯科学会初代理事長の小川哲次先生、第10回大会に多大なるご支援をいただいた新潟県歯科医師会の松崎正樹会長にご挨拶いただくとともに第10回大会特別企画として用意した一般ポスター賞を受賞された工藤義之先生（岩手医科大学）、武田宏明先生（岡山大学）、田中佐織先生（北海道大学）をはじめ入賞された先生方の表彰式が行われました。

総合歯科医の現在の歯科界における位置付け、専門歯科医や地域医療との連携の中での役割、また、それらの中での総合歯科医としての専門性のあり方など、今後も議論を重ねながら本学会が追求すべき重要なテーマが明らかとなる大変有意義な2日間となりました。また、総会においては本学会の発足から御尽力いただきました、小川哲次先生、小出武先生、樋口勝規先生の3名の先生に対し名誉会員の表彰が行われ、10回大会の節目に改めてその御功績を会員一同確認することとなりました。最後になりましたが、本学術大会を開催するにあたり様々な御指導をいただきました伊藤孝訓理事長をはじめ役員・理事の先生方、シンポジウム、特別講演、口演・ポスター発表などの講師・座長をお忙しい中快くお引き受けいただきました先生方、協賛いただきました企業の皆様、そして何より御参加いただきました多数の会員・非会員の皆様に心より御礼申し上げ、この稿を結ばさせていただきます。